

第8回 日本火葬フォーラムについて（ご報告）

日時:令和4年10月25日(火)9:00~12:00

場所:幕張メッセ国際会議場 3階 301 プログラム

開会:司会 浅野和宏氏

開会の挨拶:日本火葬技術管理士会会長 三木 求

来賓祝辞:NPO 法人日本環境斎苑協会理事長 奥村明雄様

昨年度と一昨年度の2回は、新型コロナウイルス禍のため対面での開催は中止となりましたが、今回は、会員等から有志を募り Planning Meeting(企画会議)※1 を立ち上げ特に会員の会員による会員のための内容となりました。

関連事業※2 も併せて開催されました。



講演 I

テーマ「火葬従事者として・・・私の目標」

発表者 佐賀県太良町営火葬場安穩の里堀ロルリ氏 1級火葬技術管理(37期)

火葬業務に携わって7年になる堀口氏は、当初火葬場での仕事が子ども達に周囲からの視線や言動で嫌な思いをさせないか心配されていたそうですが、反対に背中を押してくれて家族の協力と支えがありここまで続けられたことに感謝されていました。また、日々の業務を通じて「そっと寄り添う」ことの大切さも分かるようになるとともに、常に「ゆっくり・落ち着いて・丁寧に」を心がけ初心を忘れず取り組まれているそうです。さらに、1級火葬技術管理士の資格を取得し日々の保守点検の大切さ等、今までと違った視点で問題点を見ることができるようになり、プライド



を持って精進してゆきたいという決意が湧き出てきたそうです。通信教育を通じて火葬の知識や技術的なことだけではなく精神的な部分まで影響を与えていることがよくわかりました。

その火葬技術管理士の資格について、現在の民間資格から公的な資格になれば、火葬技術管理士の地位向上と自信にもつながるので、奥村理事長はじめ日本環境斎苑協会の方々のご尽力を賜りたくお願ひしますという言葉で締めくくられました。

※ 堀口氏の発表内容は、(一財)日本環境衛生センター発行の「生活と環境」2023年1月号No.778に掲載されています。

講演Ⅱ

テーマ「火葬場における接遇の課題」

発表者 (株)開邦工業斎場支援課 本多美紀氏 1級火葬技術管理士(38期)

(代理 島袋光可氏)

当日、発表を予定していた本多美紀氏が急病で出席できなくなるというハプニングがあり、急きよ島袋氏が代理で発表されることとなりました。数多くの火葬場で火葬業務に従事するとともに、プラントメーカーの社員として火葬炉設備のトラブル対応も経験されてきた本多氏が、現場での長年の体験を活かして作成された「火葬場の接遇ハンドブック」を使用して発表されました。



火葬場における究極の接遇は、故人との最後のお別れに穏やかにそっと寄り添うことの重要性を述べられました。特に、ご遺族から苦言を発生させない接遇、緊急時の対応等風土・習慣の違いはあるものの、全国どこの火葬場でも行わなければならない共通重点事項について説明されました。火葬は故人の人生の終わりであり一度きりです。また、失敗すると取り返しがききません。さら

に、火葬場での苦情は接遇のトラブルが多く、定期的な研修の必要性があります。ご遺族への思いやりや寄り添う心遣いが、トラブル防止につながり火葬場運営に必要です。

他の業種以上に、お客様(ご遺族)にそっと寄り添った接遇の重要性を力説されました。

講演Ⅲ

テーマ「新型コロナウイルス等の感染症から身を守る防護服の基礎知識」

講師 旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ(株) 菊地美穂氏

旭・デュポン フラッシュスパン プロダクツ(株)は、米国デュポン株と旭化成(株)と半出資による合弁会社として設立され、フラッシュ紡糸不織布製品及びその他不織布製品の販売、加工、用途開発技術サービスを行う会社です。感染症対策の防護服としては、バリア性・耐久性・快適性がポイントとなるとともに、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ型の違いやタイプ4・5・6についてもご説明いただきました。また、防護服で大事なポイントは、着脱特に脱ぐ時は慎重にとのこと。なお、Ⅲ型は第三者認証を取得しているので安心してお使いいただけるとのお勧めがありました。感染症対策の重要性、タイベックの優位性についてお話いただきました。



会員の集い

日頃から、物心両面のわたり当会をお支えいただいている正会員からの有益な情報や、賛助会員(法人・団体等)の魅力や取り扱う製品・技術等に関する情

報発信の場としてご活用いただくことにより、会員への情報提供や知識の集積を図るため、この「会員の集い」を設けています。

①(株)西日本環境の活動等:自然サイクル保全事業協同組合 理事長 宍田正幸氏

自然サイクル保全事業協同組合の事務局長として日本火葬技術管理士会のお仲間に加えていただくことになりました。本日は(株)西日本環境の顧問としてお話しをさせていただきますという前置きの後、(株)西日本環境の歩みについて話されました。1941年に溝口商店という個人商店からスタートされました。創業者は3年前に亡くなられたのですが、自分たちの存在を認めてほしい。特に国に認めてほしいという思いを込めて活動されてこられました。また、有害化学物質に関する考え方や、社会貢献活動として多死社会の到来による都市部での引き取り手のないお骨や、過疎地域での墓じまいの増加によるご遺骨についての対応をどのようにするか課題が山積しています。火葬を行っている火葬技術管理士にとりましても、改めて考えなければならない問題です。



②18年の軌跡と今後の取り組み:(一社)日本火葬技術管理士会 会長 三木 求

日本火葬技術管理士会が任意団体として平成16年10月に設立され18年が経過しました。その後、設立10年の節目を迎える平成27年に一般社団法人として再スタートを切りました。法人化してから毎年秋に「日本火葬フォーラム」を開催し、会員相互の



情報交換と交流を深め自己研鑽を図っており、今年で8回目を迎えています。

さて、現行の火葬技術管理士の資格は民間資格であるがゆえに、認知度も高くないというのが現状です。火葬技術管理士の資格を民間資格から公的資格に移行することにより、認知度を高め社会的な信頼を得ることが重要です。

斎苑協会では今年度「総括火葬技術管理士」の資格をスタートしました。

現行の1級・2級の資格を含めてさらに充実した資格制度確立に向けて取り組んでおられます。しかし、どんなに立派な建物ができても、建物の基礎・足元がしっかりしていないと砂上の楼閣になってしまいます。足元をしっかりさせる・固めるということは、民間資格から公的資格へ移行することだと説明され、公的資格を目指してがんばりましょうと呼びかけられました。

閉会の挨拶:(一社)日本火葬技術管理士会 副会長 玉寄 将

コロナ禍により会務遂行ができなくなるのではと心配していましたが、Web会議の開始や3年ぶりに開催した本日の火葬フォーラム等満足感があつたこと、また今後さらに火葬技術管理士の地位向上に向けて精進するという決意と、フォーラムへのご参加のお礼を述べられ第8回日本火葬フォーラムの幕を閉じました。

※1 Planning Meeting 委員会の構成(敬称略・順不同)

委員長 森田和彦(元東京都瑞江葬儀所)

委員 山本 肇(京都府与謝野町立阿蘇霊照苑 (株)セレモニーまつだ)

委員 尾上二三夫(和歌山市斎場 (株)昌栄メンテ)

委員 小栗敏史(和歌山市斎場 (株)昌栄メンテ)

委員 西川富朗(元和歌山市斎場)

委員 川田沙織(元龍谷大学社会学研究科)

※2 同時開催(関連)

①第66回 生活と環境全国大会:10月24日(月)・25日(火)

②第36回全国火葬情報交換(兼斎苑協会創立50周年記念):10月24日(月)

③施設見学会:新型コロナウイルス禍のため中止